

様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：空き家見学ツアーを通じた空き家の利活用と移住・定住の促進

団体名	木次エリア活性化推進協議会	事業費	208,033 円
代表者	代表 塚本祐次	補助金交付額	200,000 円
構成員	19 人	事業実施期間	令和3年7月8日～ 令和4年1月31日
協働のパートナー部署	政策企画部 うなん暮らし推進課 地域振興課	その他連携先	

現状と課題

雲南市は空き家率が高い。木次地区はその中でも特に高い。空き家バンクの登録数も少なく、このままだと将来は社会的な問題に発展しかねない。

事業のねらい

空き家に関心のある方に参加頂き、地区内の利活用可能な空き家を見学するツアーを企画する。見学者のアイデアや要望を反映したイメージ図を建築士が作成し、建設業者が見積もりを行い、魅力ある空き家の利活用を提案し、入居を促進する。

実施状況

◇実施状況

9月12日に木次駅前地区2軒を対象に空き家見学ツアーを行った。参加者からの意見要望を踏まえて、設計士により図面作成と建設業者による見積書を作成した。



◇協働の内容（役割分担と成果）

協議会では空き家見学するツアーの企画、運営、市内外への情報発信を行った。雲南市では空き家情報を共有し、参加者へ空き家バンクの状況や雲南市の空き家に関する補助金制度の説明などの情報発信を行った。

◇今後の改善点等

- ・空き家はあるが空き家バンクへの登録が少ない。
- ・町屋の利活用については地区の歴史やメリットとデメリットを含めて広く、情報発信が必要。
- ・全国的な情報発信は公共機関と密な協働が必要。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：日登共創プロジェクト

団体名	日登共創プロジェクト SUN ラボ	事業費	212,232円
代表者	松島 由紀子	補助金交付額	200,000円
構成員	10 人	事業実施期間	令和3年7月25日～ 令和4年3月29日

### 現状と課題

日登地区には就学前児童が約60名いるが、子ども園がないため、約6割が他地域の子ども園などに通っている。近年日登地区に移住するIターン家族も増えているが、小学校入学まで地元住民との関わりが限られており、つながりが出来にくく、相互理解が進んでいない状況である。また、地域づくりの中心となっている層は高齢化しており、若い世代の地域活動への積極的参加が求められている。

### 事業のねらい

多様な学習・交流機会を通じて保護者を含む幅広い世代の地域住民をつなげ、相互理解を推進。地域全体で子どもたちを愛する心、地域を創る心を共有する。また、地域住民が主体となり、共に取り組みを行うことで、子どもたちの地域を愛する心、多様性を受け入れることのできる豊かな心を育てていく。これらの活動を通じ、若い世代の担い手づくりを行う。

### 実施状況

#### ◇実施状況

- ①地元住民による就学前児童生徒への夏プログラムの実施
- ②SUN ラボフェス（親子のつながりの場づくり）
- ③SNS 発信「日登いいね隊」の開始
- ④はがき、クリアファイル等の製作

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

サンラボ：企画、運営

地域自主組織日登の郷：場の提供、広報

サンラボが日登の郷の活動に協力することで、地域の一体感が形成され、地区や世代を超えた関りが可能となった。また、日登の郷からの広報により、全世帯に活動内容が伝わった。

#### ◇今後の改善点等

R3年度はコロナ感染の拡大により活動が制限されたが、子どもや大人がつながる機会を引き続き提供するため、少人数での開催を重ねていく。また、誰もが自由に地域活動に参加できるよう SNS 参加者を増やしていく。



事業の名称：木次地区スローモビリティ実証運行事業

団体名	木次地区モビリティ導入協議会	事業費	350,883円
代表者	会長 陶山 桂一	補助金交付額	200,000円
構成員	17人	事業実施期間	令和3年6月1日から 令和4年3月31日まで
協働のパートナー部署	政策企画部（政策推進課、うんなん暮らし推進課、地域振興課）、木次総合センター自治振興課	その他連携先	八日市地域づくりの会、三新塔あきば協議会、新市いきいき会、タクシー事業者、ヤマハ発動機、商工会木次支部、マルシェリーズテナント会、キラキラ雲南、社会福祉協議会、シルバー人材センター

### 現状と課題

- ・高齢化により、買い物や通院など日常生活の移動に困難さを抱える住民が増えつつある。
- ・外出機会の減少は、引きこもりや孤立化の要因となり、心身の健康にも大きな影響を与えるものとなる。

### 事業のねらい

- ・高齢者等の日常生活における移動課題の解決
- ・外出機会の増加による住民の健康増進

### 実施状況

#### ◇実施状況

- ・ヤマハ発動機製スローモビリティの実証実験運行（R3.6.7～R3.6.30、R4.3.9～R4.4.8）
- ・R4年の実証実験運行は料金を取っての実証実験運行、定期券の販売
- ・チラシの全戸配布・広報誌への掲載（市報も含む）

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

##### 役割分担

木次地区モビリティ導入協議会：企画、運営、事業実施

地域自主組織：情報提供、雲南市：情報提供、ヤマハ発動機：車両の提供

##### 成果

令和3年6月の実証実験運行では延574便で乗車人数は570人（0.99人／便）でした。

乗車時のアンケート結果では94%の片が実装を希望されています。

◇今後の改善点等

- ・実装（定期運航）を行うための資金繰りが大きな課題としてあります。
- ・昨年 6 月の実証実験運行の際の乗車人数では料金収入があっても採算ベースには届きませんので、利用者の増加のための取組が必要であり、高齢者だけではなく、若年層の利用を多くするための取組が次年度以降の課題となります。



木次地区モビリティ導入協議会  
総会



令和 3 年 6 月実証実験運行状況



令和 4 年 3 月実証実験運行状況

様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：聞こえの不自由な人にやさしいまちづくり事業

団体名	要約筆記サークル みとやだんだん	事業費	213,002円
代表者	会長 木色 玲子	補助金交付額	200,000円
構成員	11人	事業実施期間	令和3年7月17日～ 令和4年3月19日
協働のパートナー部署	健康福祉部長寿障がい福祉課 政策企画部地域振興課	その他連携先	雲南市社会福祉協議会

### 現状と課題

コロナ禍において、マスク着用や飛沫感染防止のバリエーションは、聴覚障がい者をはじめとする聞こえの不自由な人にとっては、地域生活を送るうえで情報が伝わりにくく、孤立感を感じる現状がある。

### 事業のねらい

聞こえの不自由な人に文字で伝える携帯ホワイトボードの作成法と、筆談のテクニックを周知できるDVDを作成することで、今後長期的な視点をもって多くの市民に聴覚障がい者への理解や支援の方法を広められる。また、団体で作成したホワイトボードを配布し、その活用を市内のあらゆる分野の事業所に広め、聞こえにくい人への配慮が当たり前の地域にしたい。

### 実施状況

#### ◇実施状況

- ・DVD収録に向けての準備（7月～8月）
- ・筆談テクニックの研修（9月18日）
- ・DVD全体の流れについて最終確認（10月16日）
- ・DVD収録・業者に編集等を依頼（11月20日）
- ・配布用ホワイトボード作り（10月～3月）40冊

#### ◇協働の内容（役割分担と成果）

提案団体：企画・運営・DVD作成の準備

配布用ホワイトボード作成

市：情報提供、周知

連携団体（雲南市社協）：場の提供・情報提供

#### ◇今後の改善点等

コロナ感染拡大によって、DVDを活用した講習会やホワイトボード配布が進まなかったが、長期的な視点を持ち、持続的に活動していきたい。

